
桃花へ

海風漣

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

桃花へ

【コード】

N2502I

【作者名】

海風漣

【あらすじ】

「いつも、いつまでも」の事が起こる前とあとのお話。
そして、朱里ちゃん視点。

1話・発端

コンコン。

病室のドアをノックする音。

「はあい。」

この時間って……。

朱里^{あかり}は机上の時計に目をやる。

3時20分。

あ、桃花^{ももか}とお母さんだね。

「おねえちゃん！」

やっぱり。

「あ、ももちゃん。元気してた？」

「うん！」

「朱里、大丈夫？」

「うん。このごろ調子いいんだ！」

でもほんとは、あんまり病状が良くないことをお母さんは知ってる。でも、桃花には心配させたくないから。

「ねえねえ。」

ベッドの上の朱里に桃花は上目遣いに視線を投げて、そして笑う。

「うみにいこうよ、おねえちゃん！」

「……海？」

「うん。だってほら、そこ。まえにいこうっていったよね。」

まえ？

そうして朱里は思考を巡らせる。

まえ……。この前桃花が来たのは、たしか9月……。いや8月……。

「……ああ。」

ようやく合点がいった朱里に、桃花の嬉しそうな顔と、母親のあわてた顔が飛び込んでくる。

「だめよももちゃん。おねえちゃん風邪ひいちゃうから。」

「えーっ。」

「いいよお母さん。そんなに寒くないし。看護師さんに許可取ってくれば。」

「そーお？」

だいじょうぶだつてば、と付け加えて、上着を羽織る。

じゃあ取ってくるね、といって駆けだした母親を見やって、桃花がベットのの上に登ろうとしているのを助ける。

ももちゃんひさしぶりだね、という朱里の言葉をきっかけに、桃花のおしゃべりタイムが始まる。

あのね、ももちゃんね……。

そんなお話は、母親が戻ってくるまで続いたのだった。

2話：城ヶ崎海岸にて 朱里視点

「またきつと、あえるよね。だいじょうぶ。いつでもわたしは・・・
、あかりは、ももかのそばにいるよ。」

海岸には、穏やかな風が吹いていた。

車椅子に乗って外に出た朱里は、空気をいっぱい吸い込む。
潮風を、水面のきらきらした光を身体中で感じる。

ふと思つて、車椅子を降りて。

桃花の走っていった水際のほうで、朱里は、叫んだ。

「ももか！ここまで、かけっこ！」

その声に桃花は振り返り、ようい、どん！の、ようい、の姿勢をと
ったあと、走り出した。

風を切つて走るその姿が、まぶしくて、目を細める。

そうして、懐に飛び込んできた桃花を、ぎゅっつと、抱きしめた。

そのじかんはまるで、スローモーションのよう
に。

思わず朱里は、呟いていた。

「またきつと、あえるよね。だいじょうぶ。いつでもわたしは……
、あかりは、ももかのそばにいるよ。」

そのとき。

朱里は、桃花のかすかな

「うん。」

を、聴いた……気がした。

最終話 終息

あの後。

朱里の容体は急に、悪くなった。
無菌室に入れられ、瞳をきつく閉じたまま荒い呼吸を繰り返しているの姉の姿を、桃花はみつめる。

「おねえちゃん……。」

そういつて心配げに眉をひそめた桃花に、母親は声をかける。
「ももちゃん。もう暗いから。……今日は帰ろう。ね。」

「……うん。」

そう言つて母親と手をつなぎ、何度も何度も無菌室のほうを振り返りながら桃花は廊下を曲がった……。

「はあ、はあ……っ」
うつすらと開けた朱里の瞳には、白い天井が映る。

も、も……か……。

声に出したつもりだけど、それはただの空気となってひゅっ、と音を立てる。

やだ……っ。まだ、死にたくない……っ。

怖いよ……！

桃花と、お父さんとお母さんと、まだ一緒にいたい！

あまりの息苦しさと死への怖さに、涙がこぼれる。

その様子を見た看護師は、無菌室に飛び込んで朱里の肩をさする。

「大丈夫だよ……。怖いね……。」

ここにいるからね。朱里ちゃん、苦しいね……。」

今となっては、もう酸素マスクも意味がない。

そうして、夜が明けた……。

朱里は……。

亡くなった……。

うつすらと微笑んで……。

おねえちゃんを、わすれないで……。

朱里を看取った医師は、途切れ途切れのその言葉を、桃花に伝えた。

それが、朱里への最後の^{メッセージ}の伝言。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2502i/>

桃花へ

2010年10月9日03時51分発行